別紙様式1

令和4年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立西小学校　　校番（ 05 ）

a 学校教育目標	地域に愛着と誇りを抱き，夢の実現に向け自ら学びを求め，行動できる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　地域・保護者の信頼を得，心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」に基づいた取組の構築と推進	・教職員の時間管理能力の向上 ・学校経営会議や部会を通して業務の精選及び学校行事等の見直しや改善	・1カ月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えないようにする。 ・1年間の在校時間が総時間から条例等定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間を超えないようにする。	100%	67.1% (62.0)		67.1% (62.0)	C	○各月45時間を超えない達成率 ※（ ）内の数字は令和3年度 4月36.0%(33.3)　5月64.0%(59.3)　6月32.0%(50.0) 7月88.0%(85.7)　8月100.0%(100)　9月56.0%(74.0)	○学年部での業務内容の標準化の見直し ・役割分担の明確化 ・業務内容の見直し ・既存のデータの活用 ○積極的生徒指導の推進 ・自己決定の場の設定 ・共感的人間関係の構築 ・自己肯定感の育成 ○個々の業務遂行能力と時間管理能力の育成 ・勤務時間の把握 ・短期スパンによる計画的な業務遂行 ○会議の精選と周知方法の改善 ・ICTの効果的活用 ・スケジュール管理の徹底	5/5 人			・達成値が昨年度より目標値に近くなっていることは評価できる。 ・専門教科や単独教科の配置等，工夫がみられる。 ・児童の状態や授業の進め具合等を鑑みて，教員の方々も準備はされているはずだが，当面の時間超過は止むを得ないのかと思う。
確かな学力の育成	主体的に学び合う児童を育成し，学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して，本校で育成を目指す資質・能力をもった，自ら学ぶ児童の育成を図る。	本校の研究主題に全員で取り組み，仮説の検証のために計画的な実践研究を行い，研究主題に迫る授業がどこまでできたかを互いに検証する。	『主体的な学び』に関する児童アンケート肯定的評価 ・論理的思考力に関するアンケート	85%以上	92.1%		108.3%	A	論理的思考力に関するアンケートの結果，とても49.5%，まあまあ42.6%となり，根拠に基づいて発言する姿は増えてきている。 しかし，書かれていることと自分の経験や知識を結び付けたり，情報を整理・分析して考えたりすることには課題がある。	・発言の際，根拠を示して説明することを意識づける。 ・自分の経験や知識を想起させ，具体的に想像できるようにさせる。 ・中学年以上は，根拠を複数挙げる発言例を示し，情報を結び付けて考えることを指導する。	4/5 人	1/5 人		・論理的思考力が向上していることは評価することができる。年齢による経験値不足は仕方がない。
			西小学校全校で読解力を高めるドリルに取り組み，本文や資料を根拠にして読み取る力を高め，学年課題に応じた基礎学力の定着を図る。	①全国学力・学習状況調査平均値正答率 ②NRT国語偏差値平均 ③学期毎単元末テスト「読むこと（思判表）」平均	①県平均＋3 ②55以上 ③80点以上の学級80%以上	①県平均＋5 ②52.1 ③76.4%		①166% ②94.7% ③95.5%	①A ②B ③B	①全国学力・学習状況調査国語科の平均正答率は72（県平均67）だった。内容ごとに見ると，「話す・聞く」73.7（県＋6.3），「書く」59.0（県＋6.1），「読む」70.2（県＋2.4）となり，全ての内容で県平均を上回ることができたが，「読む」ことの差が県平均＋3を下回っていた。 ②・5年生は昨年度を上回っているが，3，4，6年生で昨年度を下回っている。 ・「考えや感想をもって伝え合う」47.9%，「目的に応じて書く」45.2%と課題が残った。 ③学期毎単元末テストは目標値にわずかに届かなかった。しかし，学期末テスト「たしかめよう」では，平均80点以上の学級は47%（全校平均点77.7点）であり，初読の文章は正答率が低かった。	・条件に沿って書くことを日常の授業にも取り入れる。 ・「精査・解釈」の場面で想像したことを書く場面を設定し，表現させる。 ・単元末テストを実施する前に，学習内容が理解できているかを復習する時間を学年で設定する。 ・教科書教材以外の読解プリントに取り組み，様々な種類の文章の読解に慣れさせる。	4/5 人	1/5 人		・手紙や日記を書く習慣が希薄な中，IT（クロムブックの利用等）機材を使い切るに越したことはないが，国語では言葉の”成り立ち”が必要だと思う。 ・授業参観すると発言する生徒とそうでない生徒の個人差が見られる。 ・学力は県平均を上回り，先生方の努力の成果が伺える。
豊かな心の育成	様々な人や事象とのかかわりを通して，社会性や豊かな人間性を培う。 「なかよく」心豊かな子ども	合唱と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して，豊かな感性・豊かな心の育成を図る。	学年（学級）ごとに児童の実態に応じた合唱に取り組み，仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動（詩や短歌・俳句等の音読・暗唱）を通して，自己表現に自信を持たせる。	『自らへの自信』に関する児童アンケート肯定的評価	80%以上	85.0%		106%	A	・5月と比べてわずかに2%ほど数値が上がった。 ・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で5.3%（22人）いる。 道徳や学活，帰りの会を中心に，達成感・充実感をもたせる活動に全体で取り組めたが，自己肯定感が低い児童へ個別の支援ができていなかった。 ・6年生の肯定的評価が他学年に比べて低くなっている。	・今後も，達成感・充実感を持たせるような活動を仕組んでいく必要がある。 全体の雰囲気を高める活動とともに，個人の自己肯定感を高める活動を行っていく。 ・6年生の肯定的評価が高くなると取組を，担任と仕組んでいく。	4/5 人		1/5 人	・達成感や充実感を持たせる指導により「前回の半分まで減った」ことは評価したい。 ・豊かな心を持つことは大いに必要だが，人間おりしも優越感が先に来る筈。「言って良かった」「やって良かった」と細やかな満足感が得られればと思う。 ・ポジティブな人間を培うには家庭の力が大いに要る。学校だけに任すのではなく，保護者との連携が必要だと思う。
		特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して，地域を想う心情を育てるとともに，社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	特色ある地域の学習材や人材の活用，交流を通して，「ふるさと学習」やボランティア活動に全学年で取り組み，社会貢献意識や規範意識の向上，お世話になった方々への感謝の意を表す活動を通して，ふるさとを愛する心情と相手意識を育てる。	『貢献意識』に関する児童アンケート肯定的評価	90%以上	95.0%		105%	A	・5月と比べてわずかに2%ほど数値が上がった。 「とてもあてはまる」と答えた児童の割合が9%以上増えた。 ・特別活動等で，役割を果たすことに対する達成感・充実感をもたせることができた。「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で0.7%（3人）いたが，前回の半分まで減った。	・役割分担の取組を継続していく必要がある。 ・友達を肯定的に評価するような「今日のキラリ」のようなものに引き続き取り組んでいく。 ・場に応じて，教師からも個人の活動に対しての肯定的評価を行っていく。	4/5 人		1/5 人	
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ，自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的実施により児童の体力の向上を図る。	児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに，課題克服のための取組（校内研修，外部講師による児童への直接指導，小中連携等）を充実させ，教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。	①体力テスト全国及び県平均値以上達成率 ②児童アンケートの外遊びをすることへの肯定的評価	①75%以上 ②80%以上	①25% ②76．6% （73%）		①33% ②95%	①D ②B	① 体力テスト全国及び県平均値以上達成率は25%だった。特に，反復横跳び（敏捷性），シャトルラン（持久力）に課題が見られる。 ・男子は運動やスポーツをすることが「ややきらい」，「きらい」と答える児童の割合が7.9%である。（前年比5.1%↑） ・女子運動やスポーツをすることが「ややきらい」，「きらい」と答える児童の割合が13%である。（前年比2%↑） 暑さやコロナの影響で外遊びができず，運動量が減ったために体力が低下しており，外遊びなど，体を動かすことに対する意欲が低下しているのではないかと考える。 ②外遊びは前年度より改善されており，外遊びをする児童が増えてきている。引き続き，取組を行い改善を図る。	・児童会と体育委員が連携して「なわとび大会」を計画・実施することで，児童の敏捷性・持久力を高めるようにする。 ・体育委員による休憩中の外遊びの声掛けを行う。 ・家庭学習の中に体力アップの内容を加える。 ・やわらかいボールなど外遊びができる道具を用意することで，積極的に外遊びをするように指導する。	5/5 人			・外遊びをする児童が増えてきているならば，体を動かすことを仕組んでいくことが大切である。 ・食事の摂取と体力向上は大きな関係の中，家庭での食事を伺ってみることも必要では。「昨日どんなもの食べた？」「どんなものが好き？」など食に対する意識にも変化が出る。 ・コロナ禍によって体力が落ちている状況が顕著に出ている。接触を避けるランニング等を取り入れたりする工夫が必要だと思う。
		食教育や保健・安全教育の推進により，自己管理能力の育成を図る。	保健指導や委員会活動などを通して，児童に食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り，児童の自己管理能力の育成を図る。	『食育』『保健・安全』に関する児童アンケート肯定的評価	75%以上	80.3%		107%	A	・「給食を時間内に食べきっている」は69.8%であった(+2.8)。準備の仕方に少しずつ慣れ，手際よくできるようになったため，食べる時間が確保できるようになってきた。しかし感染予防から自分に合った量にすることが難しく，残菜が目立つ。 ・「朝ごはん」は約97%が肯定的に答えている。しかし，3%の児童が食べてきていない。 ・「体力づくり」に関する肯定的評価は74．4%と課題が見られる。	・「食育」については，9月に養護教諭や共同調理場の栄養教諭と連携を図って指導を行った。今後も食育指導を行い，食に対する意識を高めていきたい。また，準備を早く終わらせる呼びかけも継続していく。 ・「体力づくり」については，外部講師を招いての指導も2学期から行っている。外遊びや家庭学習での体力づくりと合わせて指導・声掛けを行うことで意識を高めていきたい。	5/5 人			

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。